

KARTE
カルテ



あなたが下肢(脚)のだるさやむくみ、血管が浮き出るといった症状に悩んでいるとすれば、「下肢静脈瘤」と呼ばれる病気かもしれない。国内に1千万人以上の患者がいると推定されている同疾病について、専門医に聞きました。

下肢静脈瘤

下肢静脈瘤は皮膚の下の浅い箇所にある表在静脈が拡張、蛇行して「ぼこぼこ浮き出て」見える状態です。血液の逆流を防ぐ静脈弁がうまく働かず血液が逆流し、うっ滞することが主な原因です。男女とも加齢により増加しますが、特に女性に多く、妊娠や

症状はだるさ、ほてり、むくみ、かゆみ、痛み、就寝時のこむら返りなどさまざまです。長時間立った後や夕方になり自覚しやすい傾向があります。静脈の膨らみの程度と症状の強さは必ずしも一致しません。重症化すると脂肪皮膚硬化症、皮膚炎、くるぶしの

るなど日常生活の見直しが必要と。その上で①圧迫療法②弾性ストッキングや弾性包帯で圧迫し、うっ血や逆流を防ぐ②硬化療法③静脈瘤に硬化剤を注入し、血管を癒着・硬化させる③手術治療(血管内焼灼術、静脈除去術、高位結

日常生活見直し、適切な治療を

出産をきっかけに発症する例がみられます。さらに閉経後の体重増加はうっ血を助長。加齢に伴う肥満や膝関節症による歩行障害は下肢の「筋ポンプ作用」を低下させ、静脈の流れはさらに停滞します。長時間の立ち仕事も要因になります。

上方の肌がくすんだように見える色素沈着、静脈うっ滞性潰瘍(傷)を生じさせることがあります。治療の目的は①症状の改善②皮膚炎や傷を治す③見た目の改善です。まず長時間の立位を避ける▽就寝時に下肢を高く上げる▽肥満を解消す

禁術)があります。血管外科、一般外科のほか、皮膚症状が強い場合は皮膚、形成外科が診療します。下肢の痛みが主な場合は整形外科が窓口になるでしょう。下肢静脈瘤は適切な治療を行えば改善が期待できます。

ただ年齢や生活習慣、職業により経過は異なり、仕事や生活環境も含めて治療方針を考えることが大切です。

(長谷川泰士)神戸市中央区、神戸大病院国際がん医療・研究センター形成外科診療責任医師)◇第1、3、4日曜に掲載します。